

第20回学習会を、平成22年4月30日(金)19:00～20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

## 第20回目の内容

講師 重枝一郎先生(福岡市教育センター主任指導主事)

- 1 1学期の学級づくり
- 2 実践ビデオ紹介
- 3 エクササイズの体験活動



## ○1学期の学級づくり

### 契約期

#### ①教師との「リレーション」づくり

[自己開示(ユーモア・モットー)]

※こういうことはイヤなんだ!こういうことがスキなんだ!教師が自己開示する  
→自己開示の効果:担任教師の自己開示の高さは、生徒との人間関係を深める働きがあることを示した研究報告があります

(小野寺・河村, 2001)

[活動の手本を見せる(まず、やってみせる)]

※配膳台をきれいにしたいと思ったら・・・まずは教師がしてみせる

☆かかわろうとする文化をつくる

☆みんながしているから自分もしてみようと思わせる

・・・このような雰囲気(学級文化)を作るのが、教師の役目

つまり、させたい方向をさりげなく示し、導くことである

#### ②係活動のパターン化

[最初の空気づくり(ほめる、適切に注意する)]

※一人一役制などの方法もある。てきぱきと活動する最初の雰囲気づくり  
罰はあまり考えずに、ほめて強化する

#### ③ルールやマナーを楽しく体験する場面の設定

[マナーの必要性を明らかにする]

※エクササイズで場を設定する

内容は4月であれば「出会い」を意識したものがよい

生徒の実態や時期に合う内容をタイミング良く設定する

☆「ルールがあるとみんなと一緒に活動できる」

※最初のルール破りを見逃さない

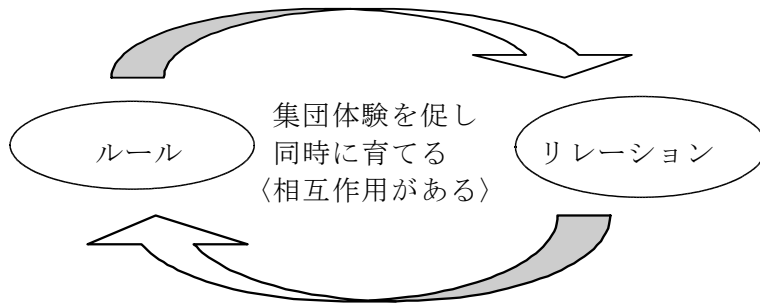
→大切なポイント・これを積み重ねることが重要

☆「リレーションがあるとみんなといて楽しくなる」

※特別でなく普通にしていることに目を向け、認め合い活動

→いいところさがし:教師が見えていることは、積極的に認めていく

教師が見えていないことは、友達同士でみつけさせ、全体に伝えていく



- ・ルールが守られると人間関係に不安が少なくなる
- ・トラブルは全体に返す（みんなで確認する）→ **ルールの定着**

6月

**再契約期**

9月

・・・・→クラスや教科の壁をとりはらって  
再契約

※ローテーション掃除など、チームで指導する。  
授業規律を守らせると、学年がしまってくる。

**解説**

○契約期：子どもたち自身が作ったルールは、内容そのものに関わらず、その作る過程を経験することによって守られていく

→(リスク):教師が一方的にしつけようとしても通用しない

※今の生徒・・・・

- ・以前は教師が「注意」をくり返せば、それが自動的にルールになっていたが、今はそのやりとりが、折り合いをつけることになって、ルールがあいまいになってくる。
- ・荒れの根っこには、リレーションの感覚の欠如がある。
- ・「しっかり」「ちゃんと」などの以心伝心が苦手。

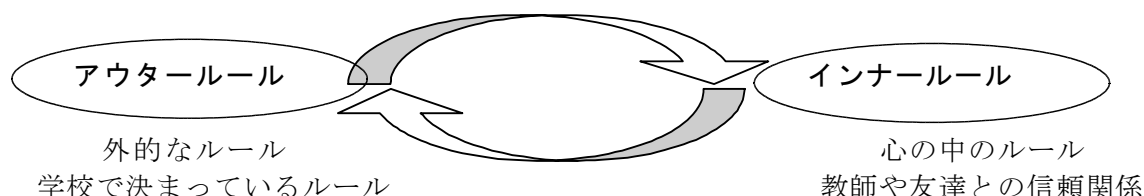
	1学期	2学期	3学期
ビジョン	規律（ルール）づくり ※契約期（4～5月）	活性化された授業づくり	文化づくり
荒れ	今は、ここで荒れがくる →先手の取組 ※再契約期 (6月に設定)	昔はここで、荒れが見えた →先手の取組 ※再契約期（9月） ルールの定着と暗黙化	

①なぜ、そのようなルールが必要であるかを説明する。

②まずは、最小限のルールを伝えて、リレーションづくりが必要。その後、親しさ感覚だけだと互いが互いに侵害する傾向が出てくる。そこで、本格的なルールづくりに入る。  
→再契約という考え方

③再契約期を決めておくと、教師のストレスもなくなる。  
慌ててたくさん契約しなくてもよいという心の余裕が生まれる。学級の実態に応じて必要なルールを、途中で加えることもできる。

④最終的には「暗黙のルール」（お互い自然と守ろうとする規範）に高める。  
集団の規範意識が高まると、その集団に所属する者は、よりその規範にあった行動を選択するようになる。  
→互いに気持ちのよい前向きな行動を学級で暗黙化（規範化）できると、子どもたちの問題行動を減らすことができる。（結果的に、荒れ防止の先手の取組となる）



※ルールを強制されると反発・逸脱したくなる。しかし、心のルールが育っていれば、押しつけられていることを意識しつつも不快感のないものとして受容され、自然な形で受け継がれていく。  
（規範の内面化を図る工夫→暗黙のルール）

**改革**は急激に始まり、ゆるやかに進展する  
**崩壊**はゆるやかに始まり、急激に進行する

実践ビデオ：ビーイング（班目標づくり）

「ビーイング→班目標づくり」

※生き方 **being** [ ある傾向：自分の能力を発揮し、実践のプロセスに生きがいを確認  
**having** [ 持つ傾向：財産、地位にこだわる生き方

〈ねらい〉

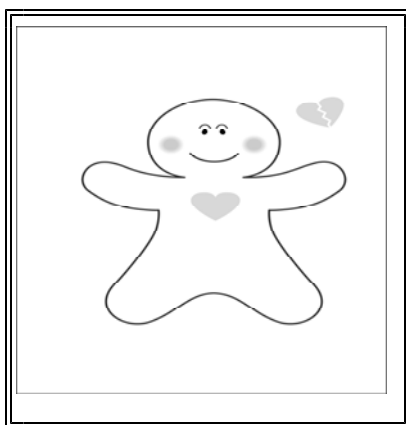
- クラス（班）のルール、マナーづくり
- 居心地のよさは与えられるものではなく、獲得するものである（自己責任）
- PAプログラム（P：プロジェクト A：アドベンチャー）  
＝人の本能を刺激する働きがある
- 自分たちの居心地のよさを維持するための責任は自分たちにあることを学ぶ
- お互い協力し合う雰囲気の醸成
- 生徒と安心できるクラスのルール・マナーを最初に契約する  
（荒れ始めたら再契約できるように）

〈方法〉

個人のワークシートを用意して（図1参照）人の絵の内側に、「安心できる楽しい班をつくるために自分にできること」を、とにかくたくさん書かせる。  
外側には「こんなことをされると嫌だ」という逆のことを書く。

個人で書き終えたら、班でリレーションを行い、大きなワークシートに班で1枚書かせる。この時点で、班でのルールが『承認され契約が結ばれた』ことになる。それを、教室掲示する。

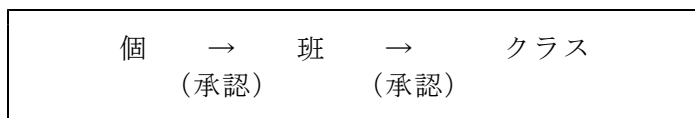
外側に  
他の人からされると嫌なことを書く  
(こんな班は嫌だ・こんなことはしてほしくない)  
例：なまける、いじめ  
授業中うるさい



内側に  
安心できる楽しい班をつくるために自分にできること、  
他の人にしてほしいこと  
(こんな班がいい・こんな風にしてほしい)  
ということを書く

(図1)

※ ブレーンストーミング → KJ法 → ランキング



中だるみの学年である中学2年生で、「ビーイング→班目標づくり」を行っているビデオを見ました。ビデオを見ると、イメージがわかります。黒板にはこんな板書がしてあります。

隣の芝生は青く見える  
↓  
あ～、あっちの班はいいな～  
だって、授業中、静かに勉強できるし……

### ○導入の工夫

まず、生徒がゾーンに入り（モチベーションが上がり、集中力が高まる状態）、今からの活動の意味や自分との結びつきを感じられるような説得力のある話を重枝先生はしています。最初の語りは必須です。

「みんな、安心感のある居心地の良い班がいいな～って思っているはず。あっちの班の方がいいな～って思ったことあるやろう？でも、居心地の良い班は、誰かが与えてくれるものではなく自分たちで獲得するものです。そこで今から、こんな班にしたい、こんな班にしようという契約を結ぶ活動をします。契約するということは、契約した内容は必ず守らなきゃいけない。契約というのはそういうものです。契約違反の人が出てくると、学級が荒れます！トラブルが続発します！！だから、契約内容は自分たちで判断して、自分たちで決めてください。自分たちで決めて守った方が価値があるよね。1学期の荒れは気にならないんです。教師も気がつかない。先生だって気づけないんです。だけど、そのままにしていたら、次から次にトラブルが起こって、最後には崩壊する。崩壊したらもう、手のほどこしようがない。この一年間は思い出したくない中学校時代になってしまう。それでいいのか？では、まず列にして、個人で考えよう」

このように、危機感をもたせ、自己責任を意識させながら、「班目標づくり」（契約を結ぶ活動）に入っていました。生徒も心の中では、荒れたクラスは嫌だと思っています。最初に悪いビジョンをはっきりと示しておくことで、生徒に、活動の意味をつきつけているのです。

「ビーイング→班目標づくり」のよいところは、「安心できる楽しい班をつくるために自分にできること」だけを考えさせるのではなく、「こんなことをされると嫌だ」という、両面を考えさせることです。両方を考えると、ものがはっきり見えます。

## ○活動時のルール

まずは、個人でワークシートに書き込みをさせます。個人の分ができた頃を見計らって、班長を集めて指示を出します。その時に、班員は、静かに待ってはいなくてはならないという暗黙のルールを守らせます。班長と先生をつぶやくやりとりを、静かに聞くしっとりとした雰囲気づくりを行うのです。活動内容におけるルールづくりだけではなく、活動を通して、暗黙のルールづくりを行うのです。つまり、日常的に教師が「暗黙のルールづくり」を意識しているかどうか、生徒にさまざまなルールを浸透させるカギを握っているのです。

班長はまず、自分の書いたワークシートを重枝先生に見せます。重枝先生は班長の書いた内容を素早くチェックして、正しい方向で班活動ができるようにミーティングをしています。さらに、指示を出します。「今から、班で1枚のワークシートを仕上げます。班で承認を得て、契約を結ぶ活動です。ランキングを少し混ぜて、班で1番重要だと思ふことを、絵の真ん中に書きましょう。次の時間には、それを模造紙に書きます」先生から指示されたことを、班長は班員に伝えます。その時の班長の話声も「つぶやく」ことが鉄則です。班活動がはじまっても、しっとりとした落ち着いた雰囲気は保たれたままです。

つまり、「班活動はしっとりとした落ち着いた雰囲気で行う」という「暗黙のルール」が守られているのです。このような、二重構造の仕掛けになっていることに気付きました。

## ○活動のまとめ

個人で出た考えをひとつにまとめる活動は「コンセンサスを学ぶ」活動です。他の人の意見を聴いて、自分の意見を述べます。なぜ、そのように考えたのかという意見交換を通して、考えを広げ、深めながら集団決定します。班活動の様子を教師は観察し、参加意識の低い生徒にはタイミング良く声をかけます。全員で契約したという形にもっていくことが大切です。

このようにして、意見がまとまった班は、班長がワークシートを教師に見せに行きます。教師はさらに考えを広げ深めさせるための刺激を与え、班にもちかえらせるというやりとりを何回か行います。

その後、まとめの段階で重枝先生が全体に話しています。「契約を結んだら、まずやろうとして下さい。ちゃんとしたら、クラスののびしろが大きくなります。だけど、今もあるやろう、うるさい班が。みんなもじっと見とけ。契約結んだんだから、しっかりやり通して下さい」

何でも最初が肝心です。悪いビジョンも両方示しながら、生徒が自分たちで決めた「契約」をクラスで結び、守りきらせることにトライしてみましょう！

## 軌道修正〈再契約〉は避けては通れない道

1学期は、生徒が荒れ始めていても、「何かおかしいな」と感じるくらいで、大きなことは起きない。1学期の荒れは目立たないのである。

だからこそ、最初にどれだけ生徒と「契約」を結べるかがポイント。まずは、「ルールとマナー」を守らせる。そのために、教師の思いをしっかりと語る。「ルールとマナーを守ることで、人間関係も同時に育てたい」ということと、そうすればどうなるのかまで、生徒にしっかり話しておく。だからこそ、ここをきびしく言うんだよ→最初にきちんと契約しておく。最初に「契約」しておかないと、再契約することができない。

## 荒れ始めたら

★1学期の荒れは目立たない。

学級にルールがなく、だらしない雰囲気に友だち関係の不安が高まってくる。その不安を一時的に避けようとして本音を隠した同調的な行動をしたり、排他的なグループを形成して、その中で自己中心的にふるまうなどの防衛的な行動が定着してくる。これは、学級開きの当初のとまどいが続く、生徒たちは思い思いに自分のペースを形成し、それが定着していく。



まずは、教師主導で集団生活の約束を共有し、学級のルールを守ること、一定の型にはまった行動をとること、決めた目標に向けて努力させること。

## トラブルが絶えない

★★2学期は問題行動が表面化してくる。

トラブルに対する指導は対処療法的に叱るばかりになり、なぜかトラブルの輪が広がっていく。生徒の心は教師不信、友だち不信が進んでいる。そしてますますトラブルが続出する。



初心にかえって、再契約法を活用する。そのためには、「ルール」と「リレーション」の相互関係について年度当初からこだわって話しておく必要がある。  
つまり「ルール」が育つと「リレーション」が育つという洗脳活動。  
具体的には ①他者とかかわるときのルール  
②集団生活を送るときのルール  
③みんなで活動するときのルール  
この3つの回復をめざすために再契約法を活用する。

## 崩壊状態

★★★3学期の荒れははっきりしている。

生徒の中の力関係で牛耳られたルール。楽なこと、めんどくさいこと、教師に反抗すること、お互いの不信感から攻撃される前に攻撃する。その結果トラブル増加、陰口や中傷の横行、前向きな行動をした生徒には引き下げが行われる。教室で生活すること自体が難しくなる生徒が出る。



あきらめず、教師が自己開示し、ルールとリレーションをつくり直すしかない。だからこそ「荒れ始めたら」の脱出に全力を傾け、一刻も早くに対策を行う。担任の「ザ・ベスト」を強いるのではなく、教師集団ひとりひとりの「マイ・ベスト」の組み合わせでサポート体制をつくる。

※ 最初の契約ができないと再契約もできない → トラブルが絶えない → 崩壊

学級が崩壊したら、教師が自己開示しなくてはならないが、担任一人の力ではどうにもできない状態になっている。だからこそ、「その前に」という先手の考え方が大切である。

## ○〈校内研修〉学校は内から変わる：開かれた学校

①授業を評価しない 教室の事実から学ぶ 生徒の学びの事実を省察  
ライブ感・一体感

※小学校はクラスのカベを取り除く 中学校は教科のカベを取り除く  
生徒がどうだったのかをみることをルールにする→ビデオに撮っておく

- ②アドバイスを交流するのではなく、学んだことを交流し合う  
〈助言〉先輩が後輩に助言ではなく、学んだことを交流する
- ③問題のある生徒を中心に話し合わない
- ④すべての教師の事例研究を行う  
年間ビデオ100本→学校は内から変わる  
一人5回はビデオに撮る。自分のビデオを自分で見る。そのうちの何本かを全員で見る  
客観的に自分を見るときはよい。勝手に気付いてみんなが変わる
- ⑤協議会では、すべての教師の発言を保障する  
みんなが学んだことを言って終わり。単純にする。落ち込んでいる人がいれば励ましてあげればよい。校内研修をもっと、シンプルで意味のある時間にする。ことで、「学校が内から変わる」

エクササイズの実験活動

## 「いろいろあわせて」(協力GWT) 「もし、子どもが・・・」(親GWT)

### GWT 協力実習 『いろいろあわせて』

ねらい

○グループのメンバー全員で協力して実習を楽しみ、グループ内での個人の役割を理解し、場面に応じて自分らしいリーダーシップを発揮する。

※見えないところにある、いろいろな色の折り紙を貼った正方形と同じものをつくる。  
(所要時間 25分くらい)

- 準備
- ・6色の色紙のそれぞれを16等分にし、そのうちの4枚ずつで1セットにする。  
(赤、黒、水、橙、緑、桃など)
  - ・下図のような見本を1つつくっておく。あとは、グループ(5~6人)に1つつ色紙を貼っていないものを用意する。
  - ・のり、えんぴつ、メモ用紙(各グループ)、振り返りシート(各自)

緑	赤	橙	緑★
緑	おもて		水
水			紺
橙	緑	赤	橙

桃★	水	紺	紺
橙	うら		赤
赤			桃
桃	桃	水	紺

★印の緑と桃が裏表で一致するところ

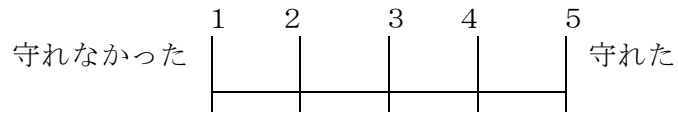
進め方

- ①グループ(5~6人)で机を囲んで座る。グループ間は間隔をとる。
- ②廊下などの見えないところに見本をつくる。グループにはのり(1個)、えんぴつ(1本)、色紙を配布する。
- ③見本を見る人はグループからひとり。ひとりが戻ってきたら次の人が見に行ける。順番を決めておく。教師は生徒の様子や良い気付きや発言を観察し、振り返りで生かす。
- ④答え合わせの後、振り返り活動をして全体でシェアリングする。

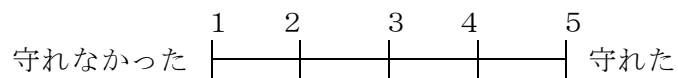
# GWT 協力実習 『いろいろあわせて』

名前

1 ルールは守られましたか？



2 協力できましたか？



3 積極的だったのは誰ですか？

4 いいムードをつくっていたのは誰ですか？

5 よく気がつく人は誰ですか？

6 説明上手な人は誰ですか？

7 これからの学校生活にプラスワンは何にしますか



## 《体験活動の解説》

### 「いろいろあわせて」(協力GWT)

#### ○ゲーム開始

風土会参加の先生たちで体験しました。まず6～7人のグループをつくります。配布されるものは、色紙とのり、白紙の紙です。

前に隠してある見本がどんなものなのかもわからずに、一人ずつしか見本を見に行けないので、とにかく見に行く順番を決めました。次々と見に行った人が戻ってくるうちに、ゲームの内容がわかってきます。どうやら、いろいろな色が張ってある窓枠のようなものが見本になっていて、その色の順番を覚えてくるゲームのようです。裏表両方に色があるので、全部で24種類の色があり、ひとりで覚えるのは大変です！

これは、チームワークが大事なゲームです！



#### ○チームワーク

「まず、表の色を見てきましょう」「私は下を覚えてきます」「次はここを覚えてきてね」声をかけあうことで、自然とチームワークが生まれます。色紙をのりで貼ってくれる人、「はい、次の人、行ってください」と声をかける人など、役割が生まれてきます。「すごい、たくさん覚えてきましたね」「あともう少し」リーダーシップをとってくれる人、雰囲気盛り上げる人、優しいムードをつくってくれる人、そのどれもが大切な役割です。ゲームを通して、確かに「協力」体験ができています。「協力」を口で説明するよりも、このようなゲームを通して協力を「体感」する方が、満足感もあるし、生徒も実感できると思いました。

#### ○早く終わったチームには・・・

「せ～の～、できた！」答え合わせをして「正解！」「やった～！！」グループみんなで喜び合います。「それでは、完成したものの中心が全部『赤色』になるように、折り曲げてみてください。ルービックキューブのように」と、新たな課題が出されます。このゲームには、まだ続きがありました。

学級で行うときに、チームワークが良くて早く終わったグループには、新たな課題を与えると、さらに盛り上がり、満足度も高まります。ぜひとも、自分の学級で実践し、生徒たちに「協力」を体感させたいと思いました。

## GWT (グループトレーニング) について

### ☆ GWT を行うときの教師の考え方・伝え方

- ・自己も他者も集団というレンズを通して見る方がいろいろ見える。
- ・他者を介して自分をみる。
- ・他者という鏡に映して自己が見える。
- ・他者を無視しては自分を見ることはできない。そこに気付かせたい。

### ☆ GWT をお得に利用する教師のビジョン

- ・自己価値感
- 「自分は有用な人間であるを実感」「自尊感情を高められる場」「互いに意見を述べ合い、聴き合い、まとめあげる作業があって、ひとりひとりが存在感と充実感を得る」

## ☆ GWTをすすめる流れ

【説明】→【課題】→【振り返り】→【まとめ】→【日常化・意識化・暗黙化】

### 1 【説明】はわかりやすくしていねいに

「今日は協力について学びます」などと言っておく。その後、アイスブレイク、グループピング、デモンストレーションなどでゾーンに入れていく。この時間は教師とのリレーションを高めるおいしい時間。もし、生徒がゾーンに入らないときは「私はこの授業を結構、苦労して用意したんだ。一生懸命やってくれたら君たちなら必ずいろんな気付きができるだろう。そしたら私は満足」みたいなアイメッセージで思いを伝える。

### 2 【課題】はルールを守って、真剣に参加してもらう

ルールを守ることが、GWTの効果を発揮するにはとても大切。まず教師は、そのサポートに全力投球。各グループ、個人の原動や変化を覚えておいて、途中の声かけや後のまとめに生かせるようにする。いいムードで参加していたら半分はOKと考えてよい。

### 3 【振り返り】は必ずしよう

振り返りシートは、他者を介して自己理解できるようにしておくとうよい。プラス返しを原則とし、これからの自分にプラスワンを意欲化したい。とにかく個人の気付きを大切に、グループに広げていくシェアリングが大切。同時にルールの暗黙化をめざしていく。やり方は「口頭で感想だけ」「いくつかを発表」「学級だよりにまとめる」など時間の関係や生徒の実態でさりげなく判断する。

### 4 【まとめ】は各グループ、個人の振り返りを生かして、気付きを豊かにしよう

シェアリングすることで、生徒たちのルール・マナーや思いやりや配慮のスキルを高めていきたい。

### 5 【日常化・意識化・暗黙化】授業の後で、その気付きが日常生活に効果的に働くようにしよう

授業で出た気付きを日頃の声かけや指導に生かして、日常生活に反映させることが最終目標です。生徒の変化をほめることでその言動が定着していく。これが「人間関係プログラム」

## ☆ GWTは主に3種類の実習がある

### ① コンセンサス実習

グループの話し合いにより集団決定する。他の人の意見を聴いて、自分の意見を述べる。理由を言えるように。自分の意見が変わってもOK。

### ② 情報カード実習

みんな必要とされている。どんな集団にも有効。話し合う場がある。「楽しいからする」じゃなくて「みんなでするから楽しい」をキャッチフレーズにしていく。

### ③ 協力実習

ゲーム性が強く楽しめる。役割分担などの評価を入れる。PM理論の振り返りも入れる。

## 「もし、子どもが・・・」(親GWT)

※保護者会などで行うとよい、親御さん向きのGWTです

ねらい

- 自分の考えを話したり、他の人の考えを聴くことにより、子育てについての考え方を深める

準備

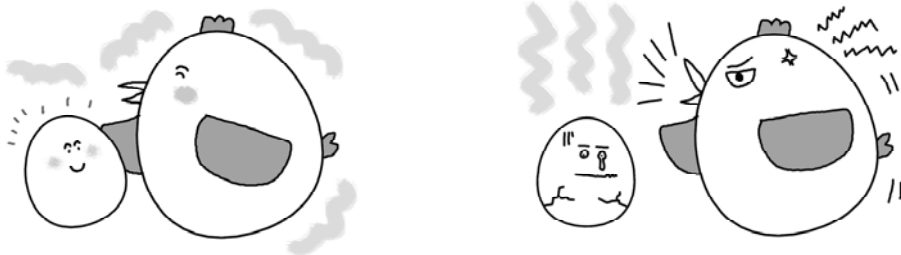
- ・課題シート・課題カード(A, B)
- ・振り返りシート

進め方

- ① 4～6人のグループをつくり、机を囲んで座る
- ② 課題シートと課題カードを各グループに配る
- ③ 課題カードはだいたい同じ枚数になるように、グループのメンバーで分ける
- ④ 実施(25分)
- ⑤ 答え合わせの後、振り返り活動をして全体でシェアリングする

留意点

- ・肯定的なカードと否定的なカードを分けてからとりかかると早くできる
- ・否定的な内容の方が、正解率は高い
- ・時間がないときは、肯定的なカードのみで行うとよい



## 「もし、子どもが・・・」

### 【課題シート・課題カード】

このシートは「もし、子どもが・・・だったらどうなるか」ということが書かれています。そういう育てられ方をした子どもはどうなりますか？

バラバラになったカードの中から、最も適切だと思われるものを、お互いが納得するように話し合いで決めてください。

課題シート A

もし、子どもが  
勇気づけを受けて  
育てられると

→

課題カード A

自信をもちます

もし、子どもが  
よいと認められて  
育てられると

→

自分自身を好きになります

もし、子どもが  
したことを認められて  
育てられると

→

目標をもつことはよいことだと思います

もし、子どもが  
心の寛容な人の中で  
育てられると

→

忍耐強くなります

もし、子どもが  
誠実に扱われて  
育てられると

→

真実が何であるかを考えるようになります

もし、子どもが  
公正に扱われて  
育てられると

→

正義が何であるかを考えるようになります

もし、子どもが  
人に受け入れられて  
育てられると

→

人を愛するようになります

もし、子どもが  
安心して  
生きています

→

自分自身と自分の周りのものを信頼します

もし、子どもが  
親切にされて  
生きています

→

世界は生きていたり、愛したり、愛されたりする、すてきな場所であると感じます



### 課題シート B

もし、子どもが  
競争にあおられて  
育てられると

→

人と協力できなくなります

もし、子どもが  
高望みされて  
育てられると

→

自分を無能だと思いこみます

もし、子どもが  
過保護に  
育てられると

→

自分の行動に責任をとらなくなります

もし、子どもが  
甘やかされて  
育てられると

→

自分中心になりエゴイストになります

もし、子どもが 敵意に満ちた中で 育てられると	→ 喧嘩で問題を解決するようになります
もし、子どもが 子育てに一貫性をもたないで 育てられると	→ 人を信頼しなくなります
もし、子どもが 権威的な環境の中で 育てられると	→ 支配的になり力に頼るようになるか、 卑屈になり力に屈するようになります
もし、子どもが 批判ばかり受けて 育てられると	→ 非難ばかりするようになります
もし、子どもが 冷やかしを受けて 育てられると	→ はにかみ屋になります
もし、子どもが ねたみを受けて 育てられると	→ いつも悪いことをしているような気持ちに なります
もし、子どもが 哀れみを受けて 育てられると	→ 自分をみじめに感じるか、哀れみを誘って 義務を逃れるようになります

※それぞれ切って使います。各グループに1セットです。

出典「協力すれば何かが変わる」監修 坂野公信 日本学校 GWT 研究会著 遊戯社

## 《体験活動の解説》「もし、子どもが……」(親GWT)

これも、風土会に参加された先生方に体験していただきました。まず、各先生に同じ数のカードを配ります。課題Aは肯定的な内容で、Bは否定的な内容ですが、両方が混在しています。「2種類に分けましょうか」という提案があり、内容を読みながらA、Bにカードを分けました。重枝先生からも、「2種類に分けていますか？」という声がかかります。保護者にしていただくときも、戸惑っている様子があれば、タイミング良くアドバイスする必要があります。

まず、課題Aの肯定的な内容から、はじめることにしました。どの内容も共通性があり、『これとこれが絶対に結びつく』という自信はもてません。しかし、誰からともなく、「これは、こうこうだから、これと結びつくんじゃないでしょうか」「あ～、確かに！では、そうしてみましよう」というように意見が出始め、話し合いが進んでいきました。人の意見を聴くと、「なるほどねえ～」と感じたり「自分も同じように思った」と共感できたりします。カードに書いてある内容自体が、考えさせられる内容なので、一層、自分の考えが深まります。答え合わせをしているときも、「なるほどねえ～」という共感や納得を生んでいました。ゲームを通して、自分の子育てを振り返ったり、人と考えを交流できたりすれば、いつもと違った満足感を得られる保護者会になるのではと、実感できました。『このカードに書いてあることを理解して、家庭教育をしっかりとってください』ということではなく、親同士をつなぐ意味で行います。親同士のリレーションづくりです。子どももこんな活動をしていますという紹介にもなります。

## 保護者会用 『もし、子どもが・・・』

1 話し合った内容についてお聞かせください

2 グループごとの話し合いが始まってから終わるまでの、ご自身の様子を振り返ってください。

(1) 自分の考えをはっきり他の人に発表できましたか (○を付けてください)

できた 

4	3	2	1

 できなかった

(2) 自分の考えを他の人は聴いてくれましたか (○を付けてください)

くれた 

4	3	2	1

 くれなかった

(3) 他の人の考えをしっかりと聴きましたか

できた 

4	3	2	1

 できなかった

3 子どものとき許してもらえなかったことで、あなたの子どもにはやらせてあげようと思うことは何かありますか？

4 自分の子どもに許可しないことはありますか？2つ書いてみてください

5 あなたが自分の子どもに対して「これだけは言わない！」と決めていることはありますか？3つ書いてみてください

# 子どもの心を強く大きくするために

～ インプット (学校力) とアウトプット (親・地域力) ～

福岡市教育センター 主任指導主事 重枝 一郎

1. 身内を広く、世間をつくる  
「学級＝身内、学校＝世間」  
「学校は内からしか変わらない、しかし内からの改革は外からの支えがなければ持続しない」  
「学校は社会性を育む望ましい反応を定着させる条件が整っている (ポジティブな学校文化)」
2. 開かれた学校の意味  
「小学校では教室の壁、中学校では教科の壁を超えない限り、学校は変わらない」  
「なまめな関係 (自由で個別的な関係) で、人は大きくなる」
3. コラボレートすること  
「ルールとリレーション」  
「アウトルールとインナールール」  
「同質と異質」  
「インプットとアウトプット」  
「個人的面直感と関係的面直感と社会的面直感」  
「人間関係づくりの授業と日常体験での定着」
4. コミュニケーションの基盤は「聴く力」 TR①【偏愛マップ】  
「ポジティブリスニング」
5. キれる子  
「ストレス対処能力と心の大きさ」 = 「ソーシャルスキルと自己肯定感」  
※コップから水があふれ出す (キれる) → 水を出せる、コップを大きくする
6. 親として TR②【もし、子どもが・・・】  
小さいときから「あなたこうなっていてほしい、ほしくない」はとても大切  
親から受けた道徳的教育に反することは子どもは生理的に受けつけない  
しかしながらこの逆で親の希望が道徳的でない場合は差別心を生みいじめの芽を育てている

私なりの3つのポイント

- ① 日常的に『感謝』することで、良識ある人という印象
- ② 子どもの心恥ずかしい、ダサイと思われる行動を堂々とさややかに起こすことで、逆かっこいいと思わせる
- ③ 正義感を大切にしていることを、小さい子どもの言動に対して、アイメッセージをおくる

0～2 (信頼)

3～小1 (我慢) 個人的

小2～小4 (思いやり) 他者との関係を意識できる時期

小5～中1 (感謝)

中2～ (感動) 体験から受け入れる時期

## 7. おわりに

ソーシャルスキル4つ

- ①あいさつができる
- ②きちんとあやまれる
- ③人の表情がよめる
- ④場の雰囲気を知ることができる

☆ 今回の学習会のキーワード ☆

○契約期・再契約期

○改革は急激に始まり、ゆるやかに進展する  
崩壊はゆるやかに始まり、急激に進行する

○小学校では教室の壁，中学校では教科の壁を超えない限り，学校は変わらない

○ソーシャルスキル

①あいさつができる②きちんとあやまれる③人の表情がよめる④場の雰囲気を察知できる



♪学習会に参加された先生方の感想♪ (参加人数 48名)

- ・本日のエクササイズはまた新鮮でした。生徒の気持ちになって生徒の動きを想像しながら考えることができました。また、保護者会のエクササイズも保護者会の活性化になると思いました。ぜひ、導入させていただきたいと思えます。校内研修のあり方についてのご提言を伺い、研修を推進しないといけない立場にある者として、大変、勇気をいただきました。「眠くならない研修会」をつくっていききたいと思えます。ありがとうございました。
- ・昨年からグループワークトレーニングやエンカウンターなどを知り、勉強しています。本に書かれていることだけでなく、子どもの実態や個性あふれるトレーニング内容に変化していて、目からウロコでした。創造することが大切だと感じました。何より参加されている先生方がいきいきしていることも、とてもうれしく感じました。今まで恐怖のモチベーションで生徒にかかわってきた自分を変化させたいと決意できました。
- ・自分が正しいリレーションを生徒と築いているのか改めて考えさせられました。生徒に媚びて関係をつくるのではなく正しいことを正しいと言い、良いところを認めて信頼関係を築いていきたいと思えます。そしていつかは、心から慕われるような教員になりたいと思えます。
- ・「崩壊はゆるやかに始まり、急激に進行する」この言葉は重たいと思えました。確かにそうだと思うので、この1学期のルールとリレーションを大切にしていきたいと思えました。初の学級担任で毎日がドキドキです。やりたい放題にさせてしまっているのが(けじめがなく、人の話を聴かない)今の自分の課題です。勉強します!!
- ・実際に体験活動をすることで、頭で理解するだけではなく、感動することができました。グループワークは教科の中でも活かせると思うので、もっといろいろな方法を学びたいと思えます。
- ・GWTは難しかったです。やはり「次は何を見てこよう」「何を見てきて」と声をかけ合うことが大事なんだと実感しました。学級の中で、かかわり合いをしかけたいと思いつつ、なかなかできていないので、学んだこと、やってみたことを、子どもたちにさせるぞ!チャンスをつくるぞ・・・という決意で帰ります。「やっぱり楽しい」と子どもたちは言ってくれると思えます。子どもとの間に信頼関係ができていいのか、いつも不安です。子どもたちを緊張させてしまう自分を少しでも変えたいので、また来たいです。
- ・今回、風土会に初めて参加させていただきましたが、大変勉強になりました。この会の存在をもっと早く知りたかったと思えました。お話も素晴らしかったのですが、実際に他の先生方とグループワークができ、楽しかったですし、実践に生かせそうだったと思えました。次回も参加したいです。
- ・今日は子ども向けのエクササイズだけでなく、親向けのエクササイズを体験することができ、非常に興味深く感じました。私自身も考えさせられ、ぜひ一度どこかでやってみたいと思えます。あのワークシートを資料としてほしいなと思えます。